

団体名	社会福祉法人枚方市社会福祉協議会	
事業名	子ども・若者支援活動に関するコーディネート事業	
実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	
助成(実績)額	1,500,000円	

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
<p>本事業のもととなる「ひらかた社協ふくしプラットフォーム事業」は、当市において従前より問題になっている「地縁型の子育て支援活動の不足」や「不登校児童生徒数の増加による子ども、若者の孤立」の解消を主な目的として実施。具体的には、市内で活動するテーマ型福祉活動団体のうち次世代育成(子育て支援、不登校児童への支援、若者支援)などに取り組む団体に向けた、レンタルスペースの運営を行っている。レンタルスペースは2種類あり、教室型の「交流スペース」防音設備のある「スタジオルーム」に分けられる。各団体がスペースを活用し、フリースクールや親子サロンを行うことで、子ども支援の充実につなげている。</p> <p>レンタルスペースを運営するにあたり、次世代コーディネーターを配置。コーディネーターは週3日常駐しており、施設管理や来客対応をはじめ、各団体の活動のサポートも行う。活動のサポートについては団体の活動状況を見聞きするなかで、活動の方向性について共に考えたり、助言したりする。また、集客や資金面で悩んでいる場合はチラシ作りに関してアドバイスしたり、社会福祉協議会の助成金につなげたりする。</p> <p>対外的な面では、SNSの運用やイベントの企画を行い、SNSについては主に本会のインスタグラムを活用したレンタルスペースの紹介や利用団体の紹介などを積極的に行っている。イベントについては、利用団体同士の交流や、市内で活動する団体とのつながりづくりを目的に実施している。具体的には、団体運営に関するノウハウを学ぶことを目的とした研修会や団体同士の交流を目的とした交流会を年3回程度開催。</p>	<p>事業実績を評価シートに基づいて、実施体制、プロセス、アウトプットの3項目にわける。</p> <p>実施体制については、助成金交付後速やかにコーディネーターを1名雇用し、週3日の常駐体制を整えた。この体制により、利用団体への迅速な対応や密なコミュニケーションが可能となり、雇用前は利用団体が3団体であったが、令和7年3月末時点で6団体に増加した。</p> <p>実施体制を整えたうえで、次世代育成支援活動に取り組む団体へのレンタルスペースの提供に加え、ネットワーク作りを目的とした意見交換会や交流会を申請時の内容に基づいて重点的に実施した。具体的には、スキルアップ研修会(1月)や団体意見交流会(2月)、利用団体活動報告会(3月)を開催し、次年度に向けたスキルアップや横のつながり強化を図った。</p> <p>コーディネーターの配置やネットワーク作りに注力した結果、令和6年度は243日の稼働のうち216日の利用があった。利用内容の内訳(重複含む)は、不登校支援や学習支援が180日、保育・子育て支援が55日、その他が3日であった。コーディネーターを週3日配置したことで、利用団体との信頼関係を構築することができた。それだけでなく、日常的に接することで各団体が抱える悩みを把握することができ、その課題に応じたテーマで研修会を企画・実施するなど、団体運営の継続性を支える取り組みにつながった。</p>	<p>令和6年度においては、利用団体を通して次世代育成に関する様々な事業を市民に提供することができた。具体的には、フリースクール事業やクラフトやボードゲームなどを通した親子の居場所づくり事業、子どもの発達支援や子育て相談に関する事業、高校生が中心となって作るラジオ放送などである。また、申請時の利用者目標900人を超える1,080人を達成することができた。要因としては、1年間の拠点提供を実施することで、利用団体の活動場所が固定化されたことや、それに伴い利用団体に固定の利用者がついたことがあげられる。特にフリースクール事業においては、不登校状態にある子どもや発達に課題のある子どもたちの継続的な利用がみられた。</p> <p>広報面においては、本会のインスタグラムや広報誌「社協だより」でレンタルスペースの紹介を行った。その結果、利用団体の増加やスペースに関する問い合わせが増えるなど、周知につながった。</p> <p>事業を通して行政や市内のコワーキングスペースの運営者など、様々なネットワークをつくることができた。行政については令和6年12月に「枚方市ひきこもりネットワーク会議」に参加。そこで、事業や利用団体の紹介を行うことで、本会が取り組む子ども・若者支援に関する情報共有や、行政の子ども関連の部署、子ども支援に取り組む事業所との関係を構築できた。また、市内のコワーキングスペース運営者によって結成された「ひらかたコワーキングネットワーク」では、他のレンタルスペースの施設概要をはじめ、運営にあたり工夫していることなど、お互いの意見交換を行った。そのなかで、いずれの施設も共通して利用者同士の交流会を定期的に開催していることがわかり、単なる場所貸しにとどまらないよう注力した。</p> <p>日常的には、コーディネーターが利用団体と接するなかでそれぞれの特色や共通点を把握し、交流の機会をつくったことで、利用団体同士が独自にコラボイベントを考えるなど、新たなネットワーク作りにも寄与した。</p> <p>一方で、申請時に計画していた企業や商店からの寄付や協賛金に関して、アプローチ方法がわからず、資金調達まではいかなかった。今後は、資金調達を含め、どのようなかたちで協力がえられるか再考する必要がある。また、スペースによって稼働率の差がみられるため、稼働率が低いところは機能を拡張するなどしていきたい。</p>

・スキルアップ研修会の様子(1月開催)



・活動報告会の様子(3月開催)

